

[公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

<事業計画>

教育改善のために ICT を利活用する FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、優れた授業研究の選考・表彰を通じて大学教育の質向上を図るため、文部科学省の後援を受けて、国立・公立・私立の大学・短期大学の教員を対象に、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を実施する。

<事業の実施結果>

「ICT 利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置し、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に委員会の活動状況を報告する。

ICT 利用教育改善発表会運営委員会

2019年(令和元年)5月18日、7月27日、2020年(令和2年)2月29日に平均8名が出席して3回開催し、ICT 利用による教育改善研究発表会における発表募集要項の作成、1次選考と2次選考の運営、Web サイトによる公表を行った。

(1) 発表者の募集

2019年度の発表募集は、2019年(平成31年)2月6日に発表募集要項を見直し、実施した。発表募集は、新年号となるため2019年度と西暦表記にするとともに、公募内容を教育の質的転換を目指す ICT 利用によるアクティブ・ラーニング、双方向型授業、反転授業、PBL、TBL、事前・事後学修、協調・協働学修などの取組みで、教育効果が見られる研究とした。また、発表申込み用紙の体裁・書式について一部修正を行った。特に、発表内容について、「ICT を利用した実践による教育効果とエビデンス」が明確になるように変更した。

(2) 発表の選考

- ① 運営委員会で49件の応募について書類選考を行い、47件の発表を確定したが、後日2件辞退があり、最終的な発表は45件となった。
- ② 1次選考は、2019年(令和元年)8月9日(金)に東京理科大学で3会場において、発表者による発表(機器接続2分、発表時間13分、質疑5分)を行い、選考規程にもとづき、選考委員が分担して発表内容及び発表会論文を精査し、以下の基準で選考した。

※ 教育上の問題解決を図るために、ICT 利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること。

※ ICT を利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること。

※ 客観的な評価方法により、教育改善の効果が示されていること。

その結果、7件を選考した。詳細は、巻末の2019年度事業報告の附属明細書【2-7】を参照されたい。

- ③ 2次選考は、9月21日(土)に実施し、選考委員全員で1次選考の発表を収録したビデオ及び発表会論文を精査し、授賞の基準にもとづき実施した結果、以下の通り私立大学教育協会賞1件と奨励賞1件の授賞を決定した。

2019年度表彰者

【私立大学教育協会賞】

「クラウド活用による同僚間アンケート調査を取り入れた問題発見課題解決型協働学修」
北海道医療大学 西牧 可織 氏、 二瓶 裕之 氏

〔授賞理由〕

本研究は、薬学、歯学、看護福祉学、心理科学、リハビリテーション科学の5学部における初年次科目において、問題を多面的・多角的に捉える力の醸成を目指した教育改善である。小規模グループの解決策について、クラス全体または学部を超えて学生間の意見をクラウド型の電子フォームアンケート機能で調査し、電子ボードの共有機能を用いて課題の捉え方や発想の気づきを得る中で、様々なデータを組み合わせて課題解決力の向上を促進する研究であり、他分野への応用・展開が期待される点についても評価できる。

【奨励賞】

「IT教室の特性と音声認識ソフトを活かした英語リスニング・スピーキング活動の可視化」
神戸学院大学 グローバルコミュニケーション学部
中西 のりこ氏 タム ショウイン氏、海老原 由貴 氏

〔授賞理由〕

本研究は、iPad、PCやスマートフォンのe-learningシステムを活用して「聞く力・話す力」の振り返りを目指す教育改善の試みである。学生の英語発表を自動音声認識ソフトで読み取り、音声から英語に変換した英語文と、英語の発表文を比較させることにより、自律的な発音学修を促すことを可能にした結果、「聞く力・話す力」が入学後の3ヶ月で飛躍的に伸び、2年次には9割がヨーロッパ基準の基礎段階言語使用者レベル（CEFR A2以上）に到達したことが外部テスト結果でも確認されたが、会話の相手にとって聞き取りやすいかという面では大きな課題が残っており、工夫が必要であることが明らかになった。

(3) 選考結果の表彰

表彰は、2019年(令和元年)11月27日の第26回臨時総会で発表者を招待し、本協会向殿会長から私立大学教育協会賞の楯と副賞(10万円)、奨励賞の楯と副賞(3万円)を授与した。

(4) 授賞論文の公表

本協会のWebサイトで公表した。



左から本協会向殿会長、受賞者の北海道医療大学の西牧氏、神戸学院大学の中西氏、本協会角田理事